問　川妻浄水場、原宿台浄化センターの復旧工事の現状は

答　両施設とも復旧工事に着手しています

鈴木　喜一郎 議員

問　去る3月11日の東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

この度の大震災により、五霞町においても多数の被害が出ました。特に公共施設においては、川妻浄水場の建物周辺の地盤沈下、原宿台公共下水道浄化センターの砂ろ過機の破損などの被害が出ました。今後における両施設の復旧工事と対策をどのようにしていくのか。

町長　このたびの東日本大震災では、五霞町においては幸いにも人的被害はありませんでしたが、屋根がわらの崩落などの被害がありました。被災された皆様には改めてお見舞い申し上げます。

両施設の復旧工事ですが、既に工事は発注しております。川妻浄水場は、場内整備及び給排水設備工事を発注しており、今後浄水施設をつなぐ接続管の更新工事に着手し、その後、場内舗装工事等を予定しております。原宿台浄化センターにつきましては、砂ろ過機の水漏れ工事を既に発注しております。また、これら施設復旧に対する国の災害対策補助申請も合わせて行っております。

川妻浄水場の地盤沈下状況

問　町の水道水の放射性物質の検査及び公共下水の脱水汚泥はどのように行っているのか。またその検査結果は。

町長　水道水については、放射性ヨウ素、放射性セシウムの検査をつくば市の検査機関に週1回委託して検査を実施しています。埼玉県水については、行田浄水場において検査がなされ、その都度報告がされております。検査結果については、乳児飲用の暫定指標値100ベクレルをすべて下回っております。また、公共下水の汚泥の放射能測定は、5月よりこれまで3回茨城県で一斉に処理場汚泥測定を行っている他、町単独でも放射能測定を行っています。

上下水道課長　これまでの検査結果ですが、乳児飲用に関する暫定指標値をすべて下回っておりますので、水道水の摂取には差し支えありません。検査結果の公表につきましても、町ホームページや広報紙に掲載しております。公共下水の汚泥についてもこれまで通り搬出されている状況です。

問　今後の水道事業運営見通しについて、どのような対策を立てていくのか。

町長　現在立地している企業に対し、毎年訪問をさせていただき、井戸水から水道水への転換をお願いしています。また、圏央道インター周辺地域への企業誘致を進めていく中で、可能な限り水需要が見込める業種を求めていくよう努めます。

問　農産物等への放射能対策は

答　積極的に検査を行い安心安全を周知していく

問　福島第一原発事故による放射性物質の拡散により、収穫される米への不安が広がっているが、今後、消費者に対し町の米の安全性をどうPRしていくのか。

町長　五霞町産米については、8月21日に川妻地区の水田から玄米を採取し、検査をした結果、セシウムは検出されませんでした。これにより安全性が確認されましたので、防災無線、回覧等で住民の皆様にお知らせいたしました。

産業課長　放射能測定器を境地域農業振興協議会で設置する予定です。あくまで自主検査の範囲になりますが、町でも積極的に検査を実施し、安心安全をPRしていきたいと考えております。

問　境地域農業振興協議会において、放射能測定器を2市2町、JAむつみ共同で購入し、検査を行っていくようだが、その利用方法は。

町長　放射能測定器につきましては、9月16日に納入予定になっておりますが、この利用規程・利用計画については、現在事務局レベルで検討中です。

産業課長　測定器の利用計画は現在検討中ですが、構成団体別に日程を決めて、農産物を中心に検査を実施していきます。測定については各市町村が担当し、検査料金については無料ということで検討を進めているところです。

その他の質問

役場職員の定年について